

# 『COVID-19変異株』について

新型コロナウイルス変異株の比較

		VOC-202012/01 (英国株)	501Y-V2 (アフリカ株)	501Y-V3 (ブラジル株)	R.1系統 (E484K単独変異)
変異	N501Y	あり	あり	あり	なし
	E484K	なし	あり	あり	あり
感染性		75%上昇※1	50%上昇※3	上昇の可能性※4	不明
病原性		致死率1.64倍※2	不明	不明	不明
免疫逃避 (再感染)		なし	あり	あり	あり
ワクチン効果		維持	減弱する可能性 の懸念	減弱する可能性 の懸念	減弱する可能性 の懸念

※1 Kathy Leung, et al. Early transmissibility assessment of the N501Y mutant strains of SARS-CoV-2 in the United Kingdom. October to November 2020. EuroSurveill.2021 Jan;26(1):2002106

※2 Robert Challen, et al. Risk of mortality in patients infected with SARS-CoV-2 variant of concern 202012/1:matched cohort study. BMJ 2021 ;372 :n579.

※3 Pearson CAB, et al. Estimates of severity and transmissibility of novel South Africa SARS-CoV-2 variant 501Y.V2.

※4 ECDC. Risk related to the spread of new SARS-CoV-2 variants of concern in the EU/EEA - first update. Retrieved 2 February 2021.

- E484Kは免疫が効きにくい要注意株
- 東京でE484Kが約57%を占め、N501Yの約33%を上回っています。
- E484Kは、感染力は従来株と変化ありませんが、ワクチン効果を低下させる可能性が指摘されています。
- 国内での報告例は少ないが、「N501Y」と「E484K」の両方の変異があるウイルスとして、ブラジル株、南アフリカ株もあり、感染力が強く、ワクチン効果が低下する恐れが指摘されています。

インド由来とされる変異株が4月26日までに国内で21例みづかり注目されています。感染力が強くワクチンの効果低下が懸念されています。

インドでは現在、新型コロナの患者が急増しており、1日当たり35万人以上の感染者が報告され、変異株の影響が指摘されています。

4月12～18日のスクリーニング結果  
東京都健康安全研究センター

# 国内で使用されるCOVID-19治療薬

一般名	販売名 (先発品)	製造販売元	薬効	既承認・開発中の 対象疾患
レムデシビル	ベクルリー	ギリアド	抗ウイルス薬	エボラ出血熱
デキサメタゾン	デカドロン	日医工 など	ステロイド	重症感染症 など
バリシチニブ	オルミエント	米イーライ リリー	JAK阻害薬	関節リウマチ
ファビピラビル	アビガン	富士フイルム 富山化学	抗ウイルス薬	新型・再興インフ ルエンザ感染症
ナファモスタット	フサン	日医工 など	タンパク分解 酵素阻害薬	急性膵炎など
カモスタット	フォイバン	小野薬品工業 など	タンパク分解 酵素阻害薬	急性膵炎など
イベルメクチン	ストロメク トール	MSD	駆虫薬	腸管糞線虫症 など
トシリズマブ	アクテムラ	中外製薬/ スイス・ロシュ	抗IL-6R抗体	関節リウマチなど

- もともと関節リウマチの治療薬であるバリシチニブはレムデシビルと併用することで効果が確認されています。
- トシリズマブも関節リウマチの治療薬で、免疫異常による炎症を抑制する重症患者の症状を改善します。
- ファビピラビルは新型インフルエンザウイルス治療薬です。

# 開発中のCOVID-19治療薬

薬剤名	種類	社名	開発状況
バムラニピマブ/ エテセビマブ	抗体（併用）	米イーライリリーなど	米EUA
カシリピマブ/ イムデピマブ	抗体カクテル	米リジェネロン/ スイス・ロシュ	米EUA
AZD7442	抗体カクテル	英アストラゼネカ	P3
VIR-7831	抗体	英GSK/米ビル	P3
VIR-7832	抗体		—
モルヌピラビル	低分子	米メルクなど	P3
AT-527	低分子	米アテア/スイス・ロシュ /中外製薬	P2
BI 767551	抗体（吸入）	独ベーリンガー インゲルハイム	P1/2a
PF-07304814	低分子（注射）	米ファイザー	P1
PF-07321332	低分子（経口）		P1

## • 中和抗体

ウイルスの細胞への感染を阻害するもので、米国で実用化されています。変異株にも効果が期待されています。

塩野義製薬は、北海道大との共同研究で特定した抗ウイルス薬の研究を進めています。

オンコリスバイオファーマは鹿児島大と契約を結び、同大が見出した抗ウイルス薬の開発中。

カネカは国立感染症研究所と共同で治療用抗体を開発しており、製薬会社と組んで21年度中に臨床試験を始めたいとしています。

# 新型コロナウイルスワクチン開発状況

承認



※承認には緊急使用許可などを含む

申請



P3



WHOによると臨床試験に入っているCOVID-19ワクチン候補は96種類。  
このほかに184種類が前臨床の段階にあります。

米ファイザーと英アストラゼネカのワクチンは、mRNAワクチンである。  
米ジョンソン・エンド・ジョンソンのワクチンはウイルスベクター型で1回接種で85%の重症化予防効果を示した上、通常の冷蔵庫の温度で最大3カ月間保存が可能。  
接種拡大の追い風になると期待されています。

WHO 5月4日時点

Answers News 5月7日より

# 接種スケジュール

## ①から③が優先接種

優先順位を

- ①医療従事者など
- ②高齢者
- ③基礎疾患のある人と高齢者施設の従事者として順次接種を実施します。

高齢者への接種は4月に始まり、6月には基礎疾患のある人への接種を開始する予定です。



# 優先接種の対象疾患は？

## 優先接種の対象となる基礎疾患を持つ人

ぜんそく、COPD(慢性閉そく性肺疾患)などで呼吸器機能が低下
高血圧、心筋梗塞(こうそく)などで心機能が低下
腎炎などで腎機能が低下
肝硬変などで肝機能が低下
糖尿病
慢性白血病など血液の病気(鉄欠乏性貧血は除く)
がんなどの病気で免疫機能が低下
ステロイド(点鼻薬、塗り薬などは除く)を使った治療で免疫機能が低下
多発性硬化症など免疫異常による病気
パーキンソン病などの神経疾患で身体機能が低下
ダウン症などの染色体異常
脳性まひなどによる重症心身障害
睡眠時無呼吸症候群
肥満(BMIが30以上)

## 接種の不適合者と要注意者

### 不適合者(接種が受けられない)

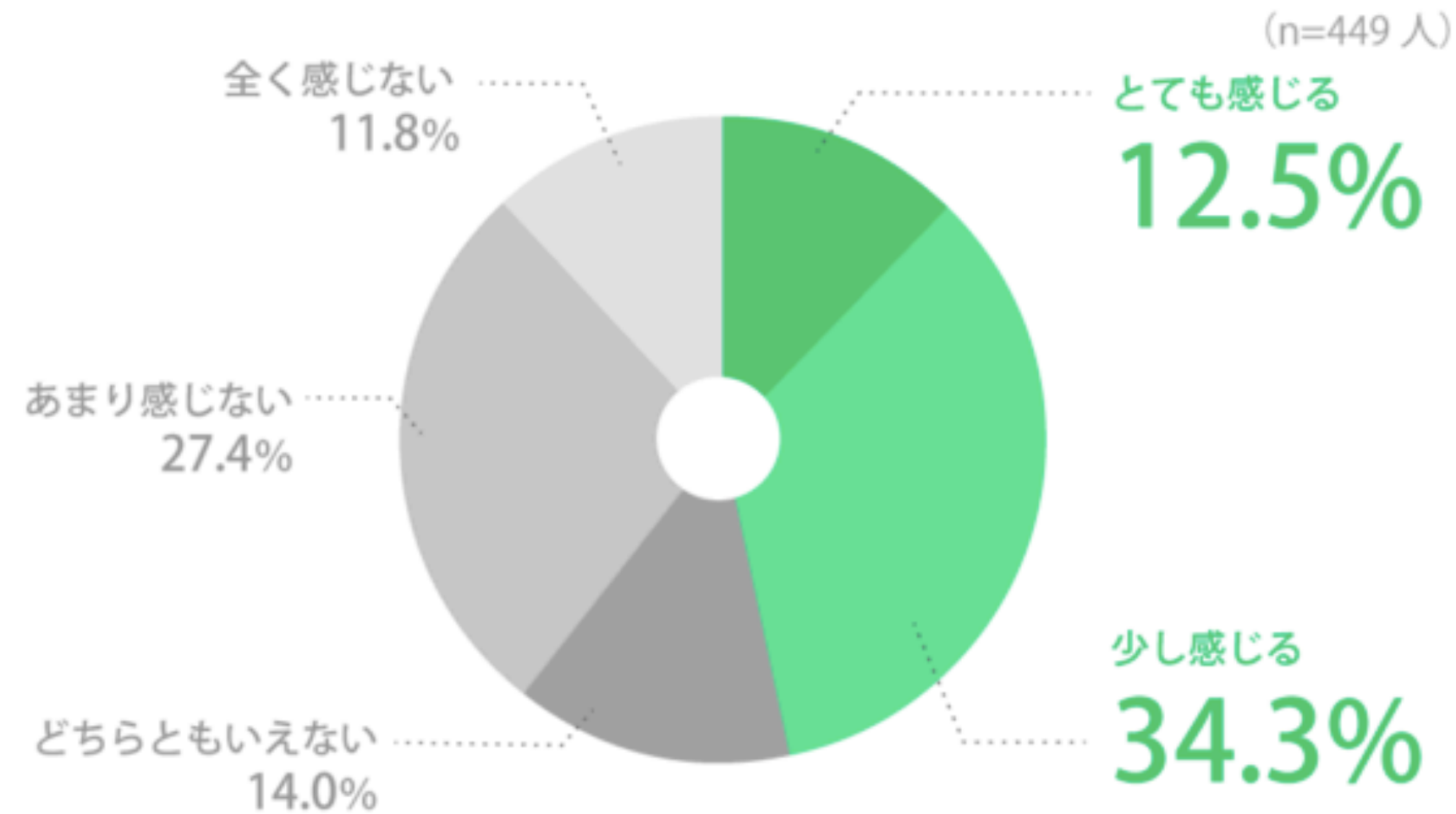
37.5度以上の発熱
重い急性の病気にかかっている
ワクチンの成分でアナフィラキシーを起こした経験がある

### 要注意者(接種後の体調変化に要注意)

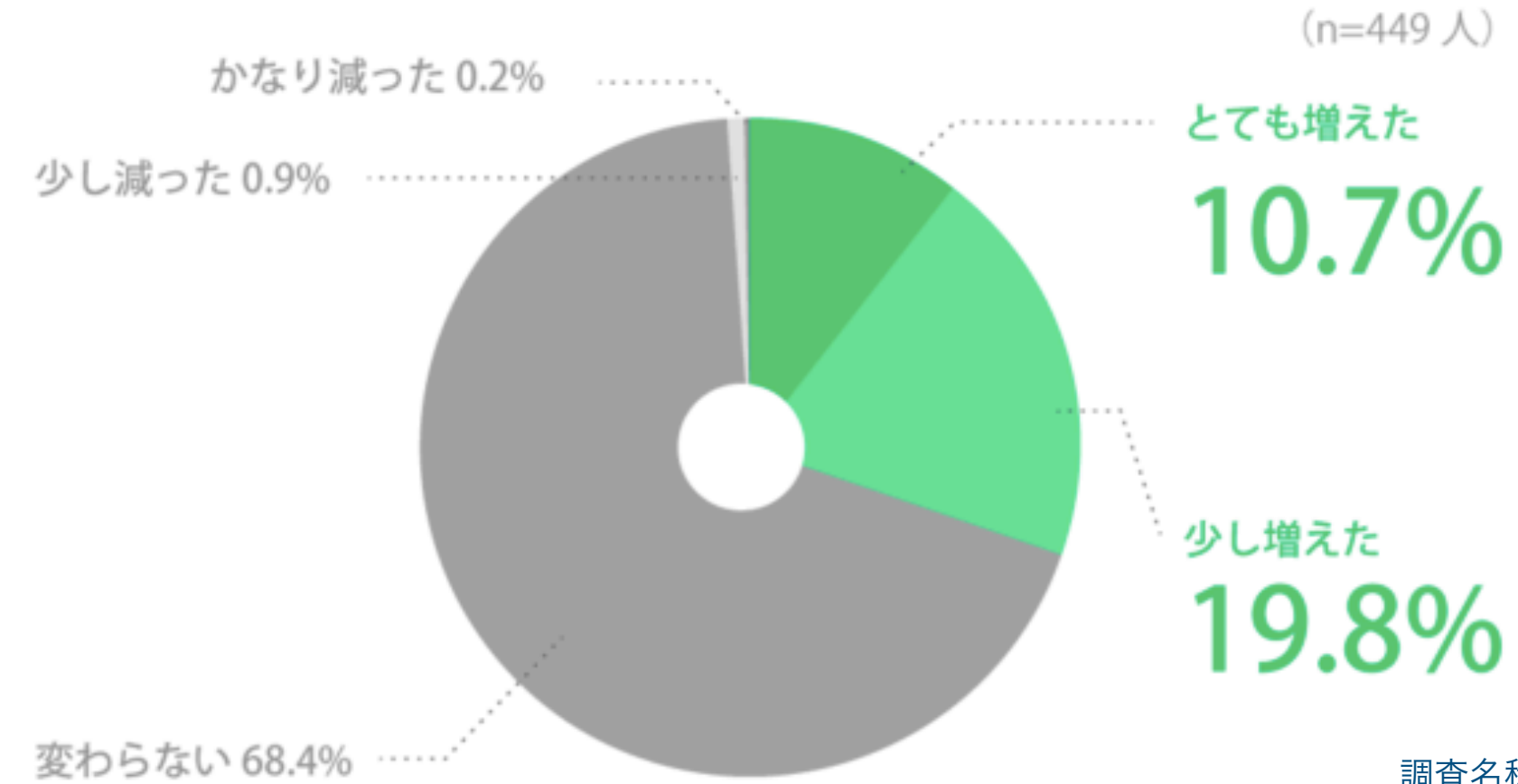
心臓、腎臓、肝臓、血液の病気がある
予防接種後2日以内に発熱やアレルギー症状がでたことがある
けいれんを起こしたことがある
免疫不全の診断を受けたか、家族などに先天性免疫不全症の患者がいる
ワクチンの成分でアレルギーを起こす可能性がある

# コロナ禍の家事・育児

Q. コロナ禍での家事・育児において孤独感や心細さを感じることはありますか？



Q. コロナ禍で家事・育児について配偶者/パートナーと話し合う時間に変化はありましたか？



調査名称：家事・育児分担に関するアンケート  
調査対象：アプリ「ninaruポッケ」、「パパninaru」利用者  
調査人数：449（男性：79名、女性：370名）  
調査期間：2021年2月8日～3月17日

配偶者/パートナーと話し合う時間について、30.5%が「とても増えた」「少し増えた」と回答。

配偶者/パートナーと話し合う時間が「増えた」人ほど、家事・育児分担の満足度が「高い」人の割合が多い。

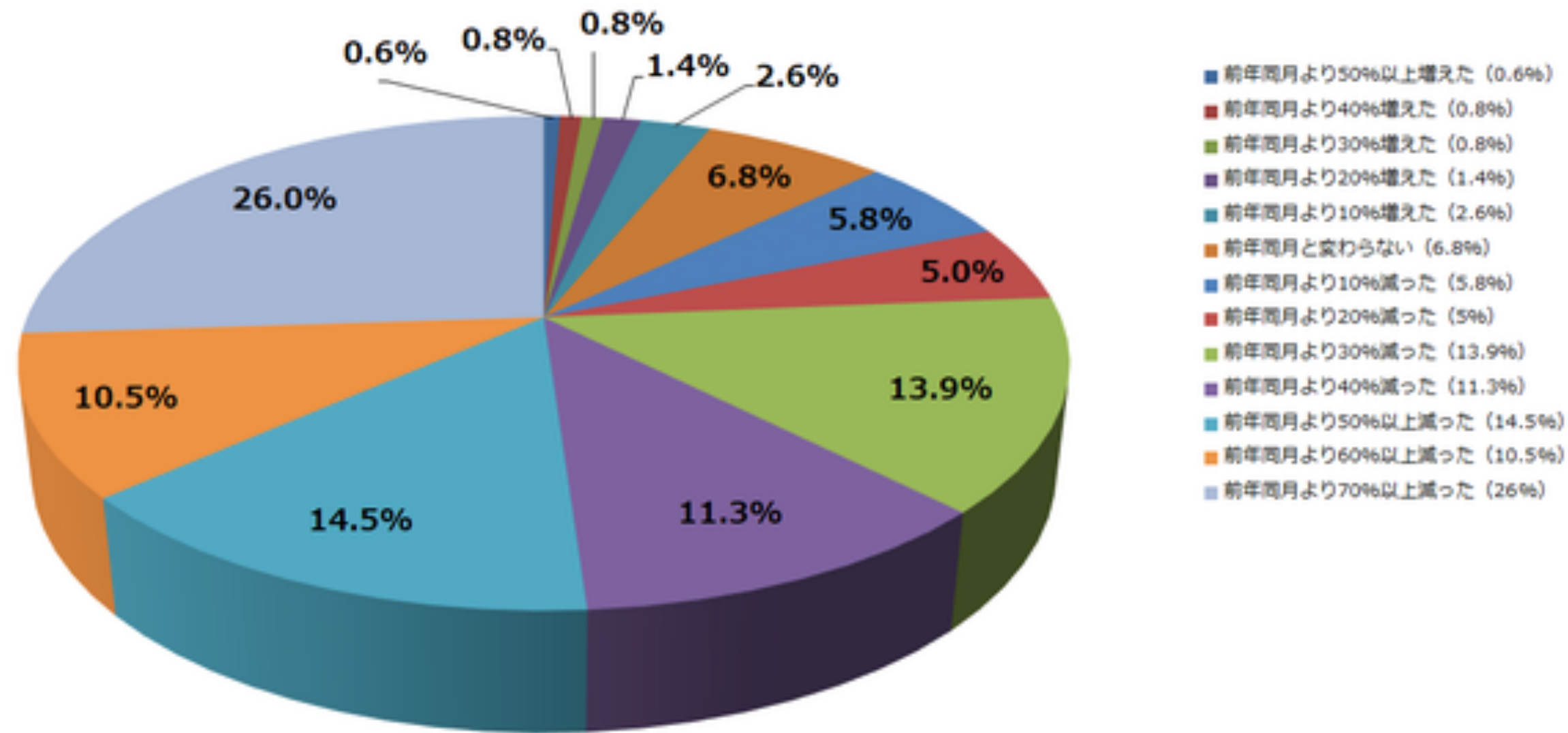
国土交通省の発表（※1）によると、**全就業者のテレワーカーの割合は2020年度に22.5%となり、過去5年間で最高値を記録しました。**

**テレワーカーの割合**は地方都市圏よりも首都圏が高く、東京都の発表（※2）では、2021年3月後半の都内企業（従業員30人以上）の**テレワーク導入率は56.4%** **テレワーク実施社員は、56.2%**でした。

# 飲食店での解雇・退職の理由

コロナ禍における外食自粛の動きや、度重なる営業時短要請は、飲食店の経営に大きな影響を与え続けている。雇用状況や人材管理について調査のためアンケートを実施をした。株式会社 シンクロ・フード調査

2月の売上について、2019年の同月比をお答えください。(n=503)

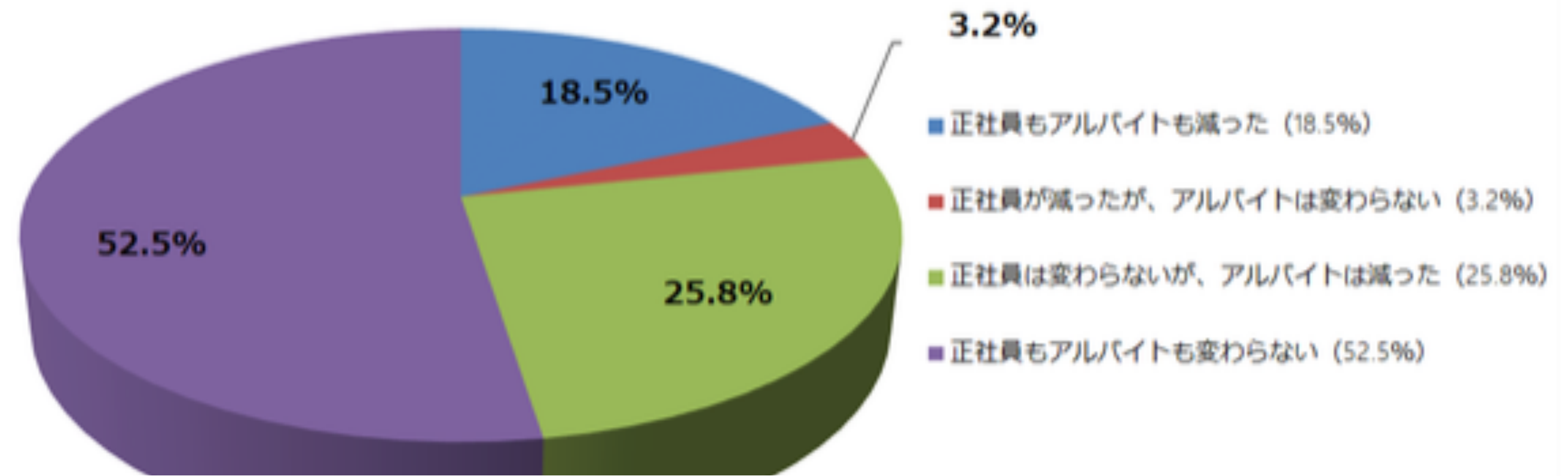


2021年2月と2019年2月の経営状況について売上の比較

- 70%以上減少：26%
- 50%減少：14.5%
- 30%減少：13.9%

**87%が減益**

2020年10月以降、従業員（正社員・アルバイト）の雇用に変化はありましたか？(n=503)



2020年10月以降の従業員（正社員・アルバイト）雇用の変化

- 正社員もアルバイトも変わらない：52.5%
- 正社員は変わらないが、アルバイトは減った：25.8%
- 正社員もアルバイトも減った：18.5%

**47.5%が人員削減をしている**

正社員よりアルバイトが減少している。